

NPO「日本に健全な森をつくり直す委員会」の、  
「委員」、「賛助会員」、「2020年に企画した“養老孟司と学ぶ「森里川海連環”」（会場：モンベル品川店、大阪本社）、“森里川海”思想と生きていこう（会場：モンベル広島店）に応募して下さった方々」へ。

委員長 養老孟司

皆様は、「コロナ」禍の中、どのような“時間”を過ごされていますか？  
私は1月5日には、本年「ゾウムシ」採りのスケジュールを作りました。  
この虫が活発化する5月下旬に、中国地方で「まだ採っていない地域」を歩くことを決めました。中国地方には、島根県西部の高津川の源流に、私共「NPO日本に健全な森をつくり直す委員会」の事務局が吉賀町柿木村にありますので、ここで今年は、皆様との「養老孟司と“ゾウムシ”を見る」という企画を行うことに致しました。

10年前に「東日本大震災」が起きる前から私は、いくつもの著作で、  
「現代でも“参勤交代”をやみましょう」と言っていました。  
「日本列島に五百年むこうまで訪れている“活断層活動期”に各地で起こると考えられる大地震に備えて、災害時の避難地をつくっていこう。  
そうして、田舎に“第二の親類のような関係”もつくってゆくのだ」、と。

すると、10年前に「東日本大震災」が起きていました。  
今回は、10年後に、「余震」が同じところで、大きく動きました。  
「全列島」では、同様な地震が近年起きています。  
しかし日本は、昔の“活動期”にできた、美しく、四季のある、  
それを美しいと思う人間が住む、列島国なのです。  
そこから選ばれた国民だと思えます。

今回の「コロナ」が教えたのは、  
「都市に“密”に住む」ことは、  
日本には、世界にもよくないということでした。  
日本の“人口減少”は、「これをチャンスにして、都市から里山へむけて  
“住み方”を変えられたらよい」と考えてはいかががでしょうか。  
そんなことを考えるためにも、私共の「委員会」は、島根県の里山に  
「委員会」事務所をつくってきたのでした。  
そんな里山を、今年は皆さんと、歩いてみたいのです。  
その頃にはまだ「コロナ」禍が、きちんと終息していないかもしれませんが、  
少数だけでもいいので、子どもたちを同行して、“龍”が棲んでいると  
いう伝説がある高津川を、一緒に見にゆきませんか？